



京都市議員団ニュース

No.84

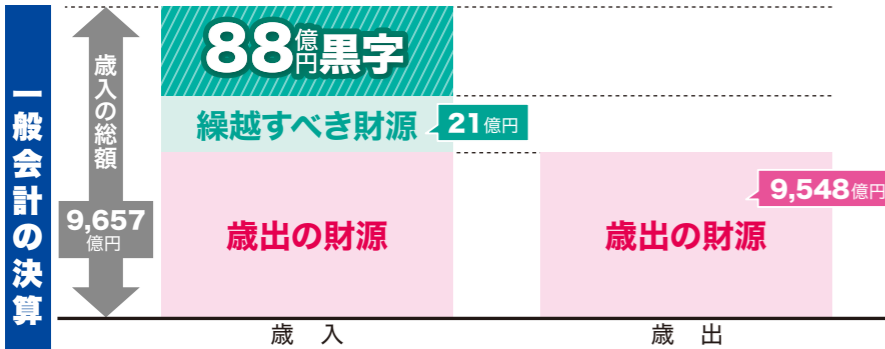
令和6年(2024)11月24日発行

発行人/橋村芳和 編集委員/平山たかお、谷口みゆき、山本しゅうじ
〒604-8571 京都市中京区河原町御池 TEL.075(222)3718~23 FAX.075(257)3091
https://jimin-kyoto.jp/

令和5年度京都市決算

ホントに黒字?

88億円の黒字決算



令和5年度一般会計決算における収支は、約88億円の黒字

特別の財源対策（公債償還基金の計画外の取崩し等）をせずに、88億円の黒字決算となったことは、京都市財政が以前より健全化してきたことの表れです。もちろん、過去最高の黒字決算となりましたが、過去負債の返済も終わっておらず、未だ厳しい財政状況であることは事実です。

ただし、公の会計は黒字だから良い、赤字だから悪いと一概に言えるものではありません。京都市財政とは一体なんのためにあるのか。それは、市民福祉の向上に他なりません。自民党京都市議員団は市民の皆様のために財政改革を進めながら、市民福祉の向上に努めてまいります。

各区の予算要望項目

左京区

- 地元の意見や環境に配慮し、デザイン検討会議での議論も踏まえて哲学の道の整備を進めること



さくらい 泰広

中京区

- 長期間にわたっている後院通無電柱化事業の早期完成
- 三条通（寺町通～新町通）を始め無電柱化の早期実現



津田 大三



加藤 昌洋

東山区

- 人口減少率が危機的水準にある東山区。なにがなんでも人口を増加させる取組を！！



平山 たかお

山科区

- 国道一号バイパス事業・十条西野の十条通以北の早期整備
- ミータス山科・醍醐プロジェクトで地域の更なる活性化！



富 きくお



山本 しゅうじ

下京区

- 中央市場の再整備で生みだされる有効活用地を京都全体の活力につなげる



下村 あきら

南区

- 南区役所の再整備は、時代に即した事業を確実にを行うこと
- JR西大路駅・南側駅舎の着実かつ早急なバリアフリー化を！



梶田 隆知



しももと 京司

右京区

- 七条通（葛野大路～月読橋）の拡張整備事業の早期実現！
- 太秦小学校東側の歩道延長整備に向けて取り組むこと
- 嵯峨嵐山の活性化に繋がる市民生活と調和した観光の推進を！



田中 たかひろ



森田 守



井上 よしひろ

西京区

- 京都市創造都市圏環状ネットワーク構想の取組の推進
- 西京区のシンボリックな芸大跡地活用を通して地域活性化



田中 明秀



西村 義直

伏見区

- 地域の骨格道路として期待される横大路中通の着実な促進
- 桃山御陵前地区大手筋通の無電柱化と道路のバリアフリー化の早期完了！



橋村 芳和



みちはた 弘之

北区

- 旧北部まち美化工務所の跡地活用を早期取り組むこと
- 災害時に原谷地域が孤立しないよう道路の整備推進を！



山本 恵一



谷口 みゆき

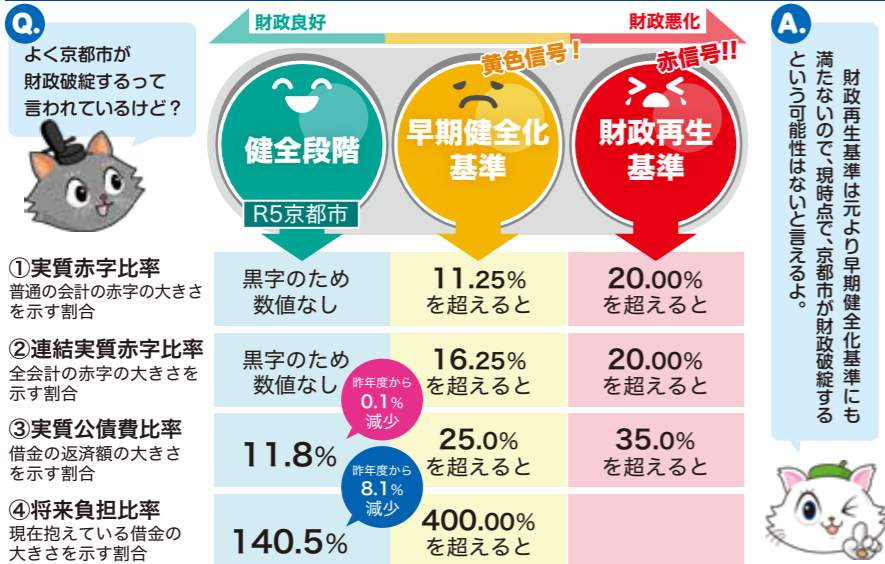
上京区

- 文化庁の移転を踏まえ地域活性化の観点から国や府と連携して、国・府・市の公有未利用地の活用を



寺田 一博

財政健全化法に基づく健全化判断比率



元維新・京都・国民会派の議員へ 身を切る改革は口だけ? 辞職勧告決議を可決

維新・京都・国民会派に所属していた小島信太郎議員（山科区）に対する辞職勧告決議を可決。

経過は次のとおりです。令和6年8月に自身の選挙区である山科区において、区内在住者である故人の親族に対し、初盆参りの供物として菓子を提供していたこと、そ

のほか数名に対しても菓子を提供していたことを本人も認めました。公職選挙法に違反するおそれがあることはもちろん、京都市会基本条例、京都市議員政治倫理条例の規定に反するものであり、市民の皆様の信頼を失墜させたことを受け、自民・共産・公明などの賛成

多数によって本辞職勧告決議の可決に至りました。

一方で、維新・京都・国民会派は本辞職勧告決議案の議決時に退席。今年5月には、昨春、初当選されたばかりの維新市議員（中京区）が突然辞職。欠員が生じたことで補欠選挙が実施されました（補欠選挙に要した経費は6,000万円）。未だ辞職事由に関して、維新・京都・国民会派からの詳しい説明もなく、今回の辞職勧告決議における退席

など一連の動きにも疑問を呈さざるを得ません。

昨春、日本維新の会、京都党、国民民主党が合同で会派を組まれ、18議席でスタートされましたが、わずか1年半余りで16議席へと減少。今年2月の京都市長選挙では、維新・京都・国民会派で推薦決定した候補者が架空パーティー疑惑によって推薦取り消し。一体、どうなっているのでしょうか…?

財政健全化へ一歩前進！ 引き続き持続可能な財政運営を



令和5年度決算は88億円の黒字 ただし社会福祉など不安も

下京区
下村あきら 議員

●下村あきら議員の質問項目●

- 1 令和5年度一般会計決算
- 2 令和5年度市バス・地下鉄事業の決算
- 3 地下鉄駅の可動式ホーム柵の設置再開
- 4 令和5年度上下水道事業の決算
- 5 「市民対話会議」及び「特別顧問」を生かした松井市政の推進
- 6 社会状況の変化に対応した救急体制を含む総合的な消防体制の充実強化
- 7 京都駅西部エリアの今後のまちづくり
- 8 高瀬川の再整備（要望）

消防体制の充実強化について

■下村あきら議員（質問）将来にわたり市民のいのちと暮らしを守るため、今後は、他都市比較による人員削減ありきではなく、市域の広大さなどの特性に加え、働き方改革の視点も踏まえた、消防体制の充実強化を図っていく必要があると考えますが、いかがでしょうか。

■松井孝治市長（答弁）今後も増加が予測される救急需要への対応や就業意識の変化も踏まえた公共人材の確保について検討を進め、市民のいのちと暮らしを守る取組について、今後策定する「新京都戦略」においてお示しし、都市特性に応じた、総合的な消防体制の構築に、取り組んでまいります。



R6・10・1から下京消防署に日動機動救急隊増隊

■下村あきら議員（質問）令和5年度決算は、特別の財源対策によらず88億円の黒字を確保しました。市民の皆様とともに成し遂げたものと考えますがどう評価されていますか。社会福祉関連経費の増加等、今後の不安要素も散見されますが、持続可能な財政運営に向けた考えと併せて伺います。

■松井孝治市長（答弁）将来負担も減少し、財政健全化にむけて着実に前進しており、皆様のご協力によるものと認識しています。一方、ご指摘のリスク要因もあり、引き続き緊張感を持った財政運営が必要です。限られた財源と人員を効果が見込まれる事業に重点的に配分し、これまで以上に攻めの都市経営に注力して持続可能な財源運営につなげていきます。

京都駅西部エリアの今後のまちづくり

■下村あきら議員（質問）京都駅西部エリアは、多様な民間事業者や研究機関が集積しており、強い経済のけん引が期待されています。中央市場の再整備で生み出される有効活用地は、京都全体の活力につながる重要な要素です。今後のまちづくりをどう進めるのか市長の決意を伺います。

■松井孝治市長（答弁）京都駅西部エリアのポテンシャルを都市全体の発展につなげることが重要と考えます。若者や子育て世代等が集まり、働き、住みたいと思えるよう中央市場の整備で生み出される市有地を最大限に活用し、企業立地、住まいや賑わいの創出等につなげます。京都駅周辺一体で相乗効果を発揮させ、戦略的なまちづくりに取り組んでまいります。

市総合計画と新京都戦略 将来世代の負担極小化を



人口増の施策のみならず 減少でも持続可能な体制に

南区
しまもと京司 議員

■松井孝治市長（答弁）国基準

等を上回っている施策の見直しが進捗した一方、新たな課題も顕

●しまもと京司議員の質問項目●

- 1 京都市新総合計画と長期的人口問題
- 2 行財政改革5カ年の総括と新ビジョン
- 3 北陸新幹線計画への地元意見・要望
- 4 京都景観・環境・防災のための緑政策
- 5 名神高速桂川ICと高瀬川域まちづくり

在化し、ご指摘のとおり公共投資や民間投資の呼び込み、未来の人材への投資も過少であったと考えます。収支改善や歳入増加を目指した成長戦略から、人・地域づくりも含めた攻めの都市経営「新京都戦略」へと進化させてまいります。

南区・東西地域の最南部エリアについて 「高瀬川流域のまちづくり」と「桂川IC」

■しまもと京司議員（要望）[西部]これまで訴えてきた名神高速・桂川スマートインターチェンジは、(旧来の向日市取組のみならず)京都市にとっても経済・防災・渋滞緩和・観光・環境等の観点や市の成長戦略、南部創造、産業立地、大京都圏構想にも資するものです。[東部]高瀬川流域・須原通の整備も文化・芸術基軸にて九条までは完了しましたが、さらに十条までの豊かな環境・文化性、陶化小学校跡地の早期活用にも目を向けたまちづくりが必要です。



京都市総合計画「長期ビジョン」策定に向けた有識者審議会の様子

■しまもと京司議員（質問）市の持続可能な体制作りためには、世界的な人口減少局面を人類社会的な自然プロセスと捉え、これまでの「他都市より格段に手厚い直接的な子育て支援」だけでなく、「都市ストックの効果的活用と市民経済に資する施策」が重要です。市民の本当の思い【サイレント・マジョリティ】の真意を的確に捉え、「新しい公共」の視点で、何を京都の未来と市民に訴え、新計画に反映・推進していかれま

すでしょうか。
■松井孝治市長（答弁）ご指摘のとおり将来的な人口減少を現実的に見据え、まちと行政のあり方を検討する必要があります。市民の皆様はもちろんのこと、京都に関わる全ての方々を含めた近隣自治体との共生も図ることで、「大京都圏」全体の豊かさを追求し、人々の居場所と活躍が生きがい・幸せに繋がる理念を提示してまいります。

「過剰」から「正常」支援に 財政コストカット型から投資へ

■しまもと京司議員（質問）先の他都市水準を大きく上回る福祉・子育て支援等で赤字続きとなった財政状況の改善に向けた行財政改革計画の正念場において、市特有の財政構造課題にも対処すべきであり、官民挙げての人と設備・研究開発への積極投資が市民生活の豊かさに繋がる基礎となります。これまで抑制的であった都市基盤整備の投資拡大が必要と考えますが、成長戦略とその方針をお答え下さい。

【代表質問】9月市会（10月3日）

公共事業は、未来への投資 道路ネットワーク整備の推進を!!



来年度予算編成を控え、 都市基盤整備を進める決意

左京区
さくらい泰広議員

■さくらい泰広議員（質問） 市民生活に深く関わる都市基盤整備が進められないまま、京都市が次の世代に引き継がれたら、その時は市民生活や京都の経済に大きな支障をきたします。財政の運営には一定の規律は必要ですが、公共事業は大切な未来への投資です。来年度の予算編成を控え、投資的事業に係る歳出上限を見直し、道路ネットワークを中心とした都市基盤整備を進める市長の決意を伺います。

■松井孝治市長（答弁） 現在は収支均衡予算を達成し、投資的経費の上限設定を見直す必要があると考えています。ただ京都市の財政状況は、依然として予断を許さない状況であり、これまで以上に国、府との連携や、民間の力も得ながら都市基盤整備を進め、攻めの都市経営を実行します。



常に渋滞中の堀川通塩小路付近の早期の整備を!

府市トップミーティングの成果を 踏まえた今後の展望

■さくらい泰広議員（質問） 昭和53年、京都府民の念願であった林田府政が誕生して以来、京都市、京都

府のトップが懇談し、様々な課題に取り組まれてきました。旧知の間柄である松井市長と西脇知事との連携により、既に観光や教育分野において具体的な取組が始まっていますが、今後、戦略的な府市連携をいかに進めていくのか、市長の考えを伺います。

■松井孝治市長（答弁） 市長就任直後から、西脇知事との信頼関係の下、2度のトップミーティングを経て、観光や高校教育の分野で成果が表れています。また、子ども医療費助成制度の拡充について、西脇知事が「検討会議を設けて議論する」と表明されました。まずは「中学生まで、1医療機関、1カ月200円」への拡充に向け、京都府と協議を加速化させます。

生涯を通じた歯と口の健康づくりの推進

■さくらい泰広議員（質問） 市民の皆さんの歯と口の健康を守ることは、重要な政策課題であり、歯科健診の周知を徹底する必要があります。特に妊娠期の歯科健診については、利用率が低く留まっています。京都府歯科医師会さんとの連携による、受診率向上に向けた今後の取組についての考えを伺います。

■松井孝治市長（答弁） 京都府歯科医師会をはじめ関係団体とも連携しながら、効果的な歯科検診の周知を行い、受診率の向上に取り組めます。また、多くの妊婦の方々に受診いただくため、歯科医療機関での健診の検討を進め、早期の実施を目指します。

●さくらい泰広議員の質問項目●

- 1 都市基盤整備を進める決意
- 2 大規模災害発生時の受援力
- 3 府市トップミーティングの展望
- 4 生涯を通じた歯と口の健康
- 5 不登校児童・生徒への対応
- 6 哲学の道の整備と舗装（要望）

若者が自己実現できる社会へ ヤングケアラーへの支援充実を



ヘルパー派遣対象エリアを拡大 SOSをキャッチする仕組み作りも

右京区
井上よしひろ議員

■井上よしひろ議員（質問） 京都市会では議員提案によるケアラー支援に関する条例制定に取り組んでいます。条例制定に向けて要望書を提出された京都ケアラーネットの皆さんが掲げるとおり、ケアは私たちの人生の中でかけがえのない営みです。子ども・若者が自己実現できる社会に向けて、ヤングケアラーの皆さんに対する支援の更なる充実が必要と考えますがいかがでしょうか。

■松井孝治市長（答弁） 令和7年度からヘルパー派遣事業の対象エリアを全市域に拡大する等、本格実施に向け具体的な検討を行うとともに、学齢期のお子様へのアンケート等によりお子様から支援を求める声をキャッチする仕組みも構築してまいります。



ヤングケアラーとは、例えばこんな子どもたちです



介護の担い手確保・定着に向け 外国人労働者の受入れを含めた取組を

■井上よしひろ議員（質問） 介護需要がピークに達する2040年頃に必要となる3,000人以上の新たな介護職員について、今後、外国人労働者を含めどのように確保されるのでしょうか。また、増加が見込まれる外国人労働者にしっかりと対応していくため、総合的なワンストップ窓口が必要ではないでしょうか。

■松井孝治市長（答弁）

関連団体と連携・協力しながら、外国人労働者を含めた介護の担い手確保・定着に関する取組を着実に進めてまいります。また、外国人労働者の受入れについて、オール京都で展開している様々な支援の一元的な発信や外国人労働者の受入れを着実に推進する体制整備や機能強化について、京都労働経済活力会議の場で早急に協議・検討していきます。

●井上よしひろ議員の質問項目●

- 1 ヤングケアラーに対する支援の充実
- 2 介護業界等における外国人労働者の受入れ支援
- 3 観光地の散乱ごみ対策
- 4 アーバンスポーツの振興
- 5 今後の商店街振興の取組

観光地の散乱ごみ対策について 地域主体で自走化できる支援を検討

■井上よしひろ議員（質問） 人出が多い時期や地域について、引き続き収集回数の追加や地元事業者への協力要請などの対策が必要と感じていますが市の認識はいかがでしょうか。また、嵐山では、商店街や学生など様々な方が地域のルール作りに向けて取り組んでおられますが、地域だけでは実現が難しい取組もあるため、行政との連携について検討が必要と考えますがいかがでしょうか。

■松井孝治市長（答弁） GWや祇園祭の時期には、街頭ごみ容器の収集回数追加やごみの持ち帰りの啓発等を機動的に進めてきました。秋の観光シーズンなど今後も更なる対策が必要と考えています。地域主体の散乱ごみ対策が効果的かつスピーディーに自走化できるよう、本市による支援の仕組みも検討してまいります。



令和6年9月京都市会決算特別委員会 総括質疑

自由民主党京都市議会議員団からの質問に対して市長がこう答えた!

9月17日に議案発送され、同月24日に開会された令和6年9月京都市会。

令和5年度京都市決算をはじめ、様々な議案に対して、私たち自由民主党京都市議会議員団は徹底的に質疑。

そして、9月市会の終盤のダイジェストの一つとして、10月30、31日の両日で各会派の計49人もの質疑者から市長等へ、一問一答形式となる総括質疑を実施。

丸2日間かけて行われるもので、質疑に立つ議員も、答弁に立つ市長をはじめとした京都市も、まさしく脚本のないドラマのような真剣勝負であり、相当キツイ委員会である(笑)

国の省庁ご出身の京都市元副市長が評するには「全国一厳しい議会」。そのように評される所以の一つは筆者が思うに、この総括質疑であると感じています。

しかし、その分、見応え聞き応えはあると思います。以下に、自民党市議会議員団が松井市長等と交わした議論の一端をまとめていますので是非ご確認ください。



Q.寺田一博 松井市長になって初めての決算。この決算の基の予算は門川前市長が編成されたが、松井市長就任後8カ月経ち、この間の市政運営についての所感。 / **A.松井市長** 自分の中の節目となる出来事が数点。官僚時代、阪神・淡路大震災時の特に初動における官邸の無力さ、逆に人々の力を痛感。官房副長官時代には、東日本大震災における国家の力の強さを感じるも、それだけでは社会は動かない、改めて人々の力を痛感。教員時代、コロナを経験。また、私が京都のまちに帰ってきて思うのは、京都のまちの普通の日々の営みの大切さをもう一回見つめ直したい。ひょっとしたら日本人は、日本の持っている生活文化の豊かさを一部捨てようとしているのか。日本のすばらしさ、日本の生活文化のすばらしさを京都のまちから再発信していきたいし、京都なら出来るはず。

Q.山本しゅうじ 京都駅一極集中の緩和の為に、1日当たり10万人の乗降客がある山科駅のサブゲート機能を更に高め、山科や醍醐地域へ様々な人々が滞在する流れを作り、更なる活性化も期待できる。今後、『meetus山科-醍醐プロジェクト』においても、JR西日本など交通事業者と連携した取組を是非とも進めていただきたい。 / **A.松井市長** 山科駅周辺の魅力を高めて、京都駅のサブゲート機能を強化することは、エリアの活力を高めるだけでなく、地域住民、来訪者、事業者の全てにとってプラス効果があり、大きな可能性、ポテンシャルがあると思っている。JR西日本をはじめとする様々な事業者の皆様方との連携を含めて、更に加速して進めていく。

Q.平山たかお 松井市長のよく仰る「新しい公共」。少子高齢化、人口減少が進む京都市において、これからの時代の公が、公共が果たすべき役割とは、どのようなものか。 / **A.松井市長** 明治維新以降、主権国家、近代国家が成立する過程で、政府が一律的に公共問題に対して取り組もうという時代があった。しかし、政府による課題解決が100%ではなく、福祉国家として増大してきた時に、政府の非効率というものも出てきた。そこで民営化路線が出てきた。いわば、最初がガバメントソリューションで、二つ目がマーケットソリューション。しかし、それらで解決できるかと言えばそうではない。地域

の力で社会問題を解決しなくてはいけないのではない。地域と公共の結節点として公共人材が必要であり、公を支えている人々への意識を変える、世の中を変えていかなくてはならない。

Q.みちはた弘之 令和5年度に人口減少対策推進タスクフォースが設置され住まい、子育てに関する取組の全体像がまとめられたが、近隣都市への若者子育て世代流出など人口減少に対する市長の今後の展望は。 / **A.松井市長** 京都市は子育てしやすいまちだという印象を付けるためにも、子育てに携わる方々の更なる処遇改善をどうしていくかを含め、学生が京都に残ってくれる職場づくりやクリエイティブな人を引き付ける仕組みづくり、子育て層が暮らしやすいまちづくりのプラン作りを進めていきたい。

Q.椋田隆知 京都市の魅力は、安心・安全な課題解決先進都市であること。例えば、火災件数が少ない。また救急車の到着時間が他都市に比べて早い。全国的に頻発している豪雨災害防除ができる雨水幹線の整備率が9割を超えている。移住・定住につながる魅力の情報発信をしっかりと行っていただきたい。 / **A.松井市長** これだけ公共交通ネットワークが整備されている町は魅力だと思う。それを更に磨いて、工夫していかなければいけない。今後、京都市の教育力の高さというものも、子育て世代の方々に訴えていって、まちづくりを進めていきたい。

Q.津田大三 ここ数年、文化に関わる国庫支出金が毎年減少している。文化を維持したり、うまく活用するにはお金がかかる。これらを肌で感じて頂く事が文化庁が京都に来た意義の一つだと考えている。文化庁が来たことを踏まえ、京都がすべき仕事について、どのようにお考えか。 / **A.松井市長** 都倉文化庁長官をはじめ、文化庁の職員と話す機会が本当に多い。文化庁移転におけるプライスレスな値打ちである。国庫支出金に関しては精査が必要であるが、そもそも、文化庁自体の予算が少ない。その地域の力を繋ぐ結節点として市役所が、区役所がもっと役割を果たせないか。お祭りなど地域の行事を支えておられる方々に行政としてもっと温かい眼差しを持って接することはできないのか。役割を模索していきたい。

Q.田中明秀 ごみ処理は市民生活の一番身近な根幹の事業だが、東北部クリーンセンターの耐用年限に間に合うように、老朽化に対する計画的な施設整備の検討を進めていかなければならない。処理施設の問題は周辺地域に対して環境面も含め影響が大きいが、今後、新たな施設を造っていく中で、どのような所が候補地に上がってくるのか。 / **A.松井市長** 新たな用地取得には多額の費用がかかることから、財政需要・財政事情も含めて、既存の施設、資産の有効活用を図る必要があると考えている。既にごみ処理場の都市計画決定を受けている本市所有地のうち、次期クリーンセンターの建設が可能な場所として、以前、西部クリーンセンターが稼働していた敷地、これが有力な建設候補地になるのではないかと考えている。

Q.富きくお 民間保育園の人件費補助制度について、自民党市議団としても様々な改善を求め、昨年度4億円の補正予算が計上された。一方で、昨年度の執行状況を確認したところ、5億5千万円もの多額の不用が生じている。本市が培ってきた全国トップレベルの保育水準の維持のため、補助上限額の引上げを検討して頂きたい。 / **A.松井市長** 京都の課題に即して、京都らしい保育というのは何なのかということを考えて、多様性、包摂性のある保育をどう実現していくか、予算編成の枠組みの中で配慮しながら議論を進めていきたい。

Q.谷口みゆき 住宅の再エネ地産地消・地域循環推進事業は、地球温暖化対策の一つとして、市民も企業もお得感を感じながら取り組める事業である。更なる取組の拡大に向けた今後の取組は。 / **A.岡田副市長** 家庭からの温室効果ガスの削減がなかなか進んでいない中で、非常に大切な事業である。太陽光発電等の設置に向けて、工務店やハウスメーカーへのアプローチ、CO2削減購入企業を増やすなど、積極的にPRを進めていく。

Q.加藤昌洋 コロナ禍と行財政改革によって削られてきたスポーツ予算であるが、京都は学生・社会人スポーツも盛んであるのに、最低限の維持管理すらできていないような状況を非常に危惧している。スポーツに対して京都市がしっかりと投資ができていないのではないかと常に訴えて

きたが、どのように考えているのか。 / **A.吉田副市長** 行財政改革計画の集中改革期間においては、大型施設の整備は凍結したが、通常の修繕に掛かる予算は一定確保しながら、寄付等も活用して、宝ヶ池、下鳥羽両球技場の大改修、アーバンスポーツパークの整備にも取り組んでいる。しかし、通常の修繕の予算についても、令和2年当時とは若干追いついておらず、施設のマネジメント等は大きな課題だと認識しており、しっかりと財源の確保等も含めて、その仕組みづくりについて検討していく。

Q.森田守 国民健康保険特別会計について、京都市は被保険者の負担軽減について非常に手厚く対応されてきた。今年度、京都府内の多くの都市で値上げをしたが、京都市は据置きである。こういう自治体間競争をなくすためにも、松井市長と西脇知事の府市協調によって、国が進める保険料水準の統一化を京都市としても進めていただきたい。 / **A.松井市長** 府市協調、あるいは他の自治体等も含めて統一的な制度にしていくというのは基本的な方針。具体的にどれぐらい時間を掛けてそれをしっかりやっていくかということだと思う。 / **A.吉田副市長** 保険料水準の統一の目的は、財政の安定化と不公平感の解消にもつながると考えている。また、府内統一のルールが確立されることで、市町村の一般会計と国民健康保険制度の双方が持続可能な運営につながる。府内市町村とも連携をして、保険料水準の統一化に向けて、京都府ともしっかりと協議を進めていきたい。

Q.橋村芳和 政策を実行するのは人。特に市役所の職員、組織に関して伺いたい。この4月から松井市長のもと、新たな執行体制を整えスタートしている。一方で従来の組織についても点検されていると思うが、その所感を伺いたい。 / **A.松井市長** 市民生活に行政の垣根はない。市役所の中での総合性をどのように保ち、住民の色々な要望を受け止め、どのように市役所の中を繋ぎ、住民の幸福度を上げていくのか、課題解決するのか。あるいは公共空間をどのように使い、公の世界の結節点をどのように作っていくのか。そのような視点で、行政組織の在り方を1回見直すべき時期に立ち至っていると率直に思う。